



七中だより

第1号

令和6年4月16日(火)

校長 青木 睦

「新年度をむかえて」

校長 青木 睦

七中に通い始め生徒の皆さんが大きな声で「おはようございます」と声を掛けてくれ、気持ちの良い新年度を迎えることができました。勝野能光前校長の後任として市内第二中からこの第七中に転勤してきました。三鷹市内を五中→二中→六中→五中→二中→七中と4学園6校を経験させていただき、この間どの学校・学園に行っても元気な生徒、温かい保護者、力強い地域のおかげで、学校運営を行うことができました。これからも第七中学校の子供たちのためにお力をお借りできたらと思います。

七中との出会いは40年近く前、七中が開校した当時、陸上競技顧問で全国大会に数多くの選手を送った先生がいらっしゃいました。私は陸上競技の顧問としてその先生の指導を学びに七中に来る機会がありました。七中の走り幅跳びの砂場には今もあるゴムのタータントラックの先に当時は棒高跳びのポールを差し込むボックスがありました。

始業式や入学式に整然と式に臨んでいる姿は素晴らしく、校歌・学園歌はとても大きな声で歌っていました。前校長の勝野校長先生からも授業に臨む姿は素晴らしいと聞いています。

さて、3月にはお世話になった先生や友達との別れ、4月には新しい先生や新しい仲間との出会いがあります。新しい、仲間が増えることは嬉しいことです。このクラス、この学年、この七中で出会えた一人一人を大切にしてください。これから先この出会いが、必ず自分自身の支えになるはずです。

良い出会いにする為には自分自身が相手に対して「気づかう行動」が取れるかどうかです。自分の行動により「相手がどのように思うか。」何をすれば「相手が喜んでくれるのか。」相手を気づかう行動を言葉と行動に込める習慣を持つことです。「相手を気づかう行動」一つの方法として相手の話を聴くことを大切にすることが重要です。聴き方の方法として「相手が話す割合を8割、自分が話す割合を2割」にしてみてください。そのようにすることで「相手の気持ち」がわかってくるとと思います。日ごろ皆さんが信頼している先生というのは必ず「話をよく聞いてくれる」先生だと思います。同じように自分が友達の話をしっかり聞いてあげることができると、よい関係になっていくのではないのでしょうか。

大人でもこの「相手を気づかう行動」がなかなか出来ないものです。逆に、これを習慣に出来る人はほぼ100パーセントに近い確率で周りの人の心をあたたくする事ができています。これから始まる部活動や委員会、クラスの中で相手を気づかう行動をとることで、過ごしやすい環境にすることができるのではないのでしょうか。皆さんならできるはずです。

大切な事は「与えられる人」になるのではなく、「与える人」になって欲しいという事です。「与える人」になれたときに人は好転、つまり人は成長するという事です。この出会いが皆さんにとって大切な出会いとなれることを期待しています。